

特集：eラーニング環境のデザインと実践運用 — 授業支援 —

# オンデマンド講義と Jigsaw 形式による協調学習 のブレンデッドの効果

— 学習環境の比較による検討

山田 雅之<sup>\*,\*\*</sup>

## The Effects of Blending On-Demand Lectures and the Jigsaw Method of Collaborative Learning —A Study Comparing Learning Environments

Masayuki YAMADA<sup>\*,\*\*</sup>

### 1. はじめに

近年ブレンデッド学習という言葉をよく耳にするようになった。従来、高等教育における授業は対面形式であった。対面形式にも、講義形式や演習形式、協調学習形式、さらに協調学習にもさまざまなスタイルが存在している。現代、テクノロジーが発達し、ネットワークが整備され、高等教育ではeラーニングが普及しつつある。eラーニングにもさまざまなスタイルがあり、同期型や非同期型、講義の映像を用いたビデオオンデマンド（以下VOD）型、クイズ形式で進めるなど非常に多様である。これら一つ一つの授業は、それぞれ学習環境と呼ぶことができるであろう。冒頭に述べたブレンデッド型の学習もその一つであり、その効果についてさまざまな領域で検討がされており、本学会においてもいくつもの報告がされている<sup>(1)(2)</sup>。また、他の研究領域として、たとえば学習科学や認知科学の分野においても対面形式の授業にVODを導入する方法などが検討されている<sup>(3)</sup>。

筆者の本務校（以下本学）では数年前より、現代GPなどの支援金を得て、全学的なeラーニングの推

進に努めている。このような取り組みにより、多くの教員がeラーニングに参加するという状況ができつつある<sup>(4)</sup>。しかし、現行のオンデマンド授業はビデオの映像を用いたVOD講義が多い。VOD講義はいつでもどこでも見られる、何度でも見られるという利点はあるが、15講の授業を半期の期間に計画的に受講できる学生は非常に少ない。

そこで問題となってくるのが学生のドロップアウト（途中棄権）である。eラーニングにおいてドロップアウトは一つの大きな問題である<sup>(5)</sup>。本学においてもこのドロップアウトは大きな問題としてとらえられている。このようなeラーニングでの問題に対し、学習者を支援する学習支援者（本学では学習指導講師）を配置している高等教育機関は多くあり、学習支援をいかに実施していくかという研究も多く検討されている<sup>(6)</sup>。

本学における学習指導講師は修士課程を修了していることが条件となっている。現在3名の学習指導講師を配置している。週5日、もしくは4日（うち1日は在宅勤務）の常勤勤務である。科目担当ではなく（主たる担当は決まっている）、その日出勤している者

\*日本福祉大学教育デザイン研究室（Instructional Design Laboratory, Nihon Fukushi University）

\*\*中京大学大学院情報科学研究科（Graduate School of Computer and Cognitive Sciences, Chukyo University）

受付日：2009年5月13日；再受付日：2009年8月28日；採録日：2009年12月2日